

第2章

Iwaki R.C.50th

ガバナー・分区代理

1972・1973 第353地区ガバナー

〔飯島隆俊 PG〕

いいじまたかとし



略 歴

生年月日 明治40年3月17日
 早稲田大学卒業
 (株)常磐開発社長
 (元)碎石組合理事長
 常磐地区碎石協同組合常任顧問
 昭和62年9月10日死去

ロータリー歴

昭和33年(1958)1月 平RC入会
 昭和37-38年(1962-63) 第10代会長
 昭和47-48年(1972-73)
 国際ロータリー第353地区ガバナー
 1973年 ポール・ハリス・フェロー
 1985年 ポール・ハリス・フェロー(2回目)
 1978年 米山功労者
 1981年 米山功労者(2回目)

飯島さんのこと

飯島さんは、いわき及び浜通りでは初めて1972-73年の国際ロータリー第353地区のガバナーに選出されました。飯島さんの性格は一見豪放磊落に見えますが、細かい処にも気を配り、若い会員の育成に熱心、そしてロータリーが大好きな、正に理想的なロータリアンでした。

1972年5月、不幸な事に、渡米直前に右脚のアキレス腱を半分切断してしまいました。が敢えて不自由なまま、レークプラシットの国際協議会、国際大会に出席し、帰国後すぐに、地区協議会、地区大会、1972年7月17日の秋田県花輪RCを振り出しに、1973年3月10日の山形県白鷹RCまで、秋田、山形、福島の3県、87RCを巡る公式訪問を成し遂げました。

各RCの訪問先に於いては、RI会長ロイ・D・ヒックマンのターゲット“Let's Take A New Look”「もう一度見直そう」を解り易く解説しながら、綱領に照らして、ロータリアンの一人一人がその職業を通して、地域社会をより良くするために何が出来るか自問自答しながら、そして他人への思いやり、助け合いを大切にする様、ロータリーの理想に就いての卓話をしてこられたようです。長期そして遠路の活動により右脚の傷のために左脚にかかる負担は、大変なことだつたと思われまじ、その熱意に敬意を感じます。

また外部拡大にも努められ、原町、相馬、富岡RCの特別代表を務め、そして地区の3分割問題、オハイオ州合唱団、オーストラリアよりのG.S.E.の受け入れ、平RCの創立20周年等々、多忙にして大変な1年だつたと思います。然し何時も笑顔を絶やさずに行動され、ご自分の眠る墓にもロータリーのマークを入れております。正にロータリー大好きな飯島Gらしさが偲ばれます。



墓石にロータリーのマーク

(文責 清水)

1977・1978 第253地区ガバナー

〔加藤武久 PG〕

かとう たけひさ



略 歴

生年月日 大正2年8月15日
 明治大学商学部卒業
 沖電気入社
 (株)不二屋 代表取締役社長
 東北ゴルフ連盟理事
 福島県ゴルフ連盟会長
 いわき市消防団初代団長
 平安会会長
 勲五等瑞宝章を叙勲
 昭和60年1月22日死去

ロータリー歴

昭和31年2月 いわき平ロータリークラブ入会
 昭和37年 内郷ロータリークラブ特別代表
 昭和38年7月 いわき平ロータリークラブ会長
 昭和49年 RI 253地区浜通り分区代理
 昭和52年7月 RI 253地区ガバナー
 1977年 ポールハリスフェロー
 1985年 米山功労者

加藤さんのこと

加藤さんは、1976-77年度年次大会が五地区連合年次大会として、札幌、真駒内アイスアリーナで開かれた時に、253地区ガバナーノミニーに指名され壇上で宣言挨拶されました。処が1977年4月末に77-78年度ガバナーノミニーである佐藤GN（米沢RC）が突然辞任されました。その為に加藤GNは一年早まって、5月15日に国際協議会、世界大会へ出席の為フロリダ州ボカラートンへ急遽、渡米することになりました。加藤GN、ホストクラブになる平RCの皆さんは俄の出来事でG事務所、地区大会の準備等々、大変な忙しさでした。亦それにもまして、GNの奥様、ご家庭の方々も、渡米の準備、心構えも、容易ではなかつた事と推察されます。

公式訪問は、W・ジャック・デービスRI会長の方針「全人類を結びつけるために奉仕せよ」に従ってロータリーの普遍的、不易なものの指導に徹する、即ち、職業奉仕のモットーとしての四つのテストの普及、励行を推進、奉仕の理想として、具体的に「ジンギスカンの泉」の教え（後から来る者の為にオアシスの泉は汚してはならない）を例にして卓話し、加藤Gの話は判り易いとの評価を得た様です。

年次大会も準備期間の少ない中、全会員が結束しての協力、努力、コホストクラブの皆様のご援助で、素晴らしい大会になりました。ことにレックス・ウェブスターRI会長代理が、ロータリーソング“Sing Everyone Sing”のタクトを振られたのは、年次大会としては前代未聞で特筆されることと思います。

大会一カ月後のロータリー情報研究会は故田中善六PGのご配慮で、福島RCのホストで開かれました。

Gの業務も無事終了された次年、PGになられても、雛壇に座らず、SAA委員長を進んで引き受けられたのにも、加藤PGのお人柄が偲ばれます。

(元地区幹事 鈴木喬二／文責 清水)

1988・1989 第253地区ガバナー

〔吉田 仁 PG〕

よしだ ひとし



吉田さんのこと

1988-89年度の253地区ガバナーがわがクラブから出ることとなり、その人選の結果吉田仁氏に白羽の矢が立った。そしてその使者として私が指名を受けたのは、最も近い住いだったこともあったと思う。数回お願いにお邪魔した後何とか快諾をいただいた。そして『ではよろしく…』と言われた言葉が意味深であった。やがて案の定、地区幹事の大役を仰せつかった時は断り切れなかつた。

当時は253地区は、山形・福島二県にまたがり90クラブあった。交通網も今と比べると極めて不便で、山形県との往復は大変だつた。公式訪問の苦勞も現在と比べて並大抵ではなかつたと思う。けれども一方、他県のロータリアンとの交流には得難い楽しい思い出も沢山あった。ガバナーの運轉でクラブを訪問して、ガバナーの分まで酒をしたたか飲んで酔つたこともあった。そして私に『山崎さん楽しかつたなあ。でもあの人達の話の半分もわかんなかつたよ。わかつた?』などと面白がつた。

ガバナーの大任を無事果した翌年、次期村上ガバナーが体調不良のため、それに代つて公式訪問を一部代行されることとなつた。そしてその頃から体調を崩されて、部屋でストーブを二つ位つけても寒そうにしておられたのを思い出す。そして平成2年3月24日に、燃え盛つた蠟燭の火が突然消えるように亡くなられた。私としては、何等お助けするすべのないままにお別れしたのがいつまでも心残りである。

今改めて当時の「年次大会記録」をみて、既に故人になられた方も多く淋しい思いと、『あの頃はみんな若かつたなあ』と感慨無量である。

(元 地区幹事 山崎慶一)

略 歴

生年月日 大正12年4月4日
 昭和20年 日大医学部卒業
 昭和30年 福島労災病院整形外科部長
 昭和57年 いわき市医師会長
 昭和61年 福島県医師会副会長
 平成2年3月24日死去

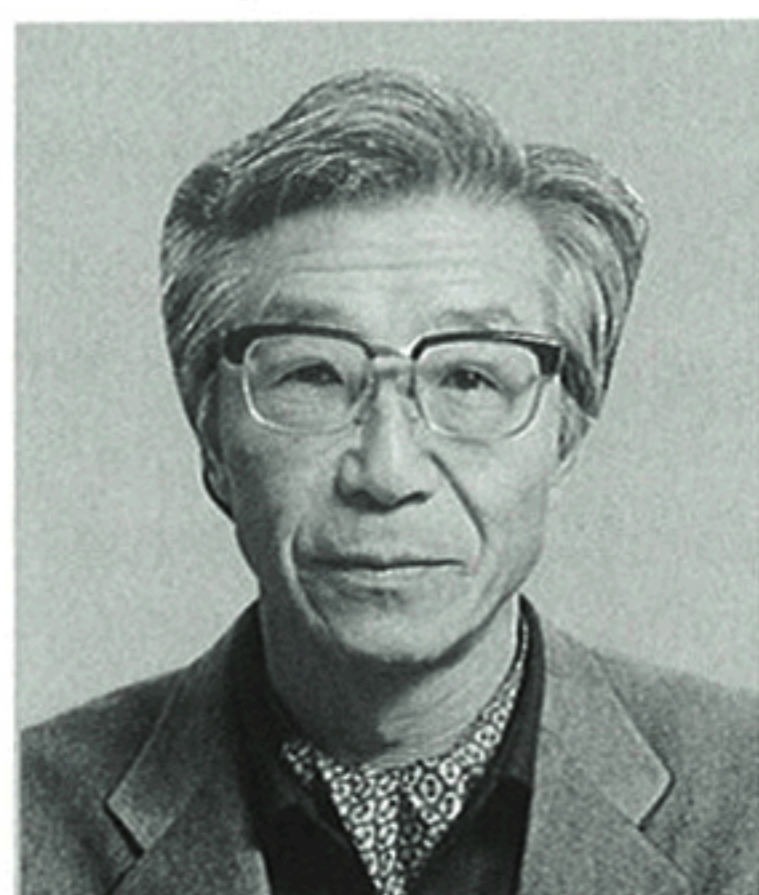
ロータリー歴

昭和44年 いわき平RC入会
 昭和55年7月 いわき平RC会長
 1988-89年 RI第253地区ガバナー
 昭和57年 ポールハリスフェロー
 昭和60年 米山功勞者

1985・1986 第253いわき分区代理

〔鈴木喬二元分区代理〕

すず き きょう じ



楽しみながら学ぶ

原町の松永輝彦ガバナーの年度である。会長職を終えた翌々年であった。

元会長がずらりと並ぶ中で私に白羽の矢が立ったのは、何の理由もなく、会長の酒井先生が強引に押し通しただけと、今でも固く信じている。

いざ出張してみると、富岡の石川昭久、福島の高野廣治（故人）、常葉の青山孝、会津若松の志藤和夫（PG）と見知った顔がありほっとした記憶がある。

当然のことながら初顔合わせは、知らない者同士の遠慮から、ぎこちない雰囲気である。そこで、先ず名刺交換しましょうと、顔見知りの分区代理を次々と紹介していったら皆さんようやくほっとして雰囲気が和んできたものである。

おどろいたのはガバナー夫人が札幌の五地区連合年次大会で一度会っただけの私に、この度はお世話になりますと声をかけてくれたことです。

志藤PGは、その年分区代理とガバナーノミニを兼務し翌々年にガバナーになり、山形の我孫子貞夫氏（中央分区）は田代PGと同期のガバナー、渡部保太郎氏（置賜分区）は国分PGと同期のガバナー、翌々年、不肖私がガバナーと、分区代理10名のうち4名がガバナー職についている。そして3名は故人となり、松永年度の代理の同期会も開かずに終わってしまった。松永先生に申し訳なく思っている。

平クラブの会長は山崎慶一、慶ちゃんとは何度か一緒に原町に通ったものである。分区幹事は、再度加藤陌ちゃんにお手伝い頂きました次第。

最後の分区の打ち上げは、三町目館の五階で、最後のお務めと舞い上った記憶がある。そして、この年度もすばらしい人々との出会いがあり、楽しみながら色々と学ぶものの多かったことを最後に、ロータリーに心から感謝を捧げたいと思う。

〔坂本行蔵 元分区代理〕

さかもとこうぞう



視点を高めよう

分区代理とはR I規約上では何の権限もなく、地区ガバナーと各クラブ会長との中間にあって、その橋渡し役となっております。

従ってR I会長および地区ガバナーの補佐役として一年間を勤めました。

さて、この年度のガバナーよりの希望事項を伝えますと、第一に会員増強で2,700名を3,000名にしたい。その為にクラブ拡大を第一にして増強を実現したい。

次に分区の分割、これは各分区7クラブを限度とし、それ以上の分区は二つに分割し、現在の6分区を9～10分区にしたい。

第三にR I会長の年度テーマは「自分を越えた眼を」ですが、“Look Beyond Yourself”の訳で各自の視点を高め、よりよい、より高度の、より高尚な視方でクラブ運営と各自の周囲を豊かなものにしようという意味だと思います。

1998・1999 第2530いわき分区代理

〔有賀敬四郎 元分区代理〕

ありがけいしろう



3つの思い出

平ロータリーの重鎮先輩達の説得により分不相応にも分区代理を引受ける事になり、しばらくの間その重責に押し潰されそうになりましたが、松崎俊昌幹事の力と平クラブ鈴木弘長会長、山野辺倉平幹事の全面的バックアップにより、いわき分区代理としてのスターとを切ることが出来ました。その中で3つの思い出を述べてみたいと思います。

その第一は、第2530地区ガバナー岩崎稠先生の御指導の下で8クラブのまとめをして行く役割でありましたが、スタートから地区役員との考え方の相違があり、とまどいました。と申しますのは、分区代理の役割とガバナー補佐の役割を混同して、分区代理にガバナー補佐の役割を求めて居りました。ガバナー補佐としての役割をになわせるのであれば、地区に於てガバナーノミニーのもと、地区リーダーシッププランを採用し、そのもとで地区役員等の人事に至る迄、協議し組織化するもので、ガバナー補佐の役割は、公式にガバナーを補佐する、極めて重い役職であります。それを地区リーダーシッププランを採用することなく、分区代理に求める事は出来ません。従って、私は手続要覧に明示された分区代理の役割のみを忠実に守る事に致しました。あくまでも各クラブの運営は会長・幹事によって運営されるべきであり、分区代理は各クラブとガバナーの連絡調整を中心にすべきであり、私はその通り実施いたしました。

その第二は、インターシティーミーティングの開催に対する思い出であります。ホストクラブの平ロータリークラブ鈴木弘長会長のもと、実行委員会を組織して頂きました。IM実行委員長を清水俊政先生にお願い申し上げ、副委員長を鷺佳弘さんをお願い致し、ホストクラブ全会員配属の組織のもと、準備に万全を期して頂きました。

当時のIMは、どちらかと云うと記念講演と懇親パーティーが主でありましたが、岩崎ガバナーの強い要望で、テーマが示され、いわき分区は、忠実にそのテーマを受けて実施致しました。清水実行委員長のもと、鷺実行副委員長のフォー

ラム進行により、IMテーマI「今、ロータリーは子供達に何が出来るか。」について、いわき内郷RC星将夫さん、いわき常磐RC里見庫男さん、いわき小名浜RC比佐巨一さん、いわき勿来RC中島国靖さんに発表を頂きました。

IMテーマII「ロータリーの夢を語ろう」では、いわき平RC鈴木弘長さん、いわき平東RC諸橋義隆さん、いわき四倉RC遠藤昭一さん、いわき平中央RC鈴木知水さんから夢を語って頂きました。

フォーラムのリーダー好評で岩崎ガバナーから、今回の2つのテーマについて大変熱心に取り上げて頂いたと感激の言葉を頂き、清水実行委員長のもと成功裡に終了することが出来ました事は私の最大の思い出になりました。

第三は、湯本高校にて採用して頂いた、交換留学生の派遣・受け入れの問題であります。地区青少年委員会に出向して頂いた平クラブの松村耕三先生の御努力により、カナダからの留学生を湯本高校に受け入れて頂き、その一年間は松村耕三先生の御奉仕によりホームステイをさせて頂きました。湯本高校では、初めての受け入れで心配したようですが、実際に入学してみますと大変大きな教育効果があったという事で、次年度から湯本高校より交換留学生を派遣したいと申し出があり、多くの希望者が出ましたが、予算の関係もあり一人に絞って頂き、平クラブでブラジルからの留学生を御預かり致しました。その一年間四人の会員の元でホームステイを致しましたが、経費については平クラブの鈴木会長のお力により、一般会計の中で処理してもらいました。しかし、今後も継続して交換留学生の派遣・受け入れを行っていく為には、いわき分区の継続事業として実施していくとすれば、経済的支援が必要であり、8クラブの会長・幹事会議で再三御審議を賜り、一会員3,000円の負担を頂き、その年度に御引き受け頂いたクラブに補助する事を決めていただきました事、それが今日迄継続されている事に、分区代理としては何も出来なかった私の中でたった一つだけの仕事だったかなと思って居ります。